

保護者向け資料 A

発熱時の対応について

子どもたちが発熱している場合の保育所(園)・幼稚園への登園につきましては、子どもの早期回復のための療養および他の子どもたちへの感染防止の観点から考えなければなりません。以下に、自宅および保育所(園)・幼稚園における発熱時の対応につきまして記載しておりますので、子どもたちの健康を守るためにご協力をお願いいたします。

I. 体温の測定方法

1. **測定部位**：ワキで測定します。口の中ではワキよりも $0.2^{\circ}\text{C}\sim 0.4^{\circ}\text{C}$ 高い値が出ます。体温計の先端部をワキの中央部に入れて、しっかりとワキを閉めてください。正しい位置に固定されていないと体温が誤って低く出ます。
(右図参照)



2. **体温計**：

- (1) 水銀体温計：正確な体温を測定するためには、最低 10 分間を必要とします。
 - (2) 電子体温計：測定開始 90 秒間の体温上昇カーブから 10 分後の体温を予測するため、誤差が出やすくなります。ただし“ピピッ”と鳴っても 10 分間以上計り続けると水銀体温計と同様に実測値が出ます。
 - (3) 耳式体温計：センサーの方向、耳垢の程度、機種などに影響され誤差が出やすいようです。
3. **測定条件**：泣いた後、食事した後、遊んだ後などは、体温が上昇していることがありますので、涼しい場所で少し休息させた後に再測定します。
 4. **汗の影響**：ワキ下に汗をかいていると体温が低く出ます。汗をふき取ってから測定してください。



II. 発熱の判断基準

上記のような方法で体温を測定し、体温が 37.5°C 以上の場合を発熱の可能性ありと見します。種々の影響で体温が上がっている場合がありますので 30 分後に必ず再測定し、その段階でも体温が 37.5°C 以上であれば発熱と判断します。

III. 発熱時の対応

1. **家庭で発熱した場合の対応**

- (1) 登園前には、子どもの体調に気をつけましょう

保護者向け資料 A

- (2) 発熱、ぐずる、泣く、食欲がない、顔色が悪い、咳や鼻水が出るなどの症状に気づいた時は、早めに主治医を受診しましょう。
- (3) 登園を控える必要がある伝染病であるか否か、主治医に診断してもらいます。同時に「保育所(園)・幼稚園に通っている」ことを話し、登園してよいかどうか確かめてください。登園を控えるように指導された場合は、子どもの安静のために、また他の子どもへの感染を防ぐために自宅および病児保育施設で療養してください。

2. 保育中に発熱した場合の対応

- (1) 保育中に 37.5℃以上の発熱があると判断した場合は、食欲・機嫌・元気の有無・咳や鼻汁の程度などを観察した後、保護者へ連絡します。その際は、原則として保護者に子どものお迎えをお願いします。
- (2) 保育中に 37.5℃以上の発熱があると判断した場合は、食欲・機嫌・元気の有無・咳や鼻汁の程度などを観察した後、保護者へ連絡します。元気で機嫌もよい場合はしばらく園でお預かりする事もできますが、機嫌が悪いなど、全身状態がよくないようであれば 38.0℃未満の微熱でもお迎えをお願いいたします。38.0℃以上であれば元気が良くてもお迎えをお願いする事があります。

3. 病気回復期の登園

- (1) 登園するには、前日は一昼夜解熱(37.5℃以下)していることが必要です。少なくとも前夜は解熱剤を使用せずに解熱している必要があると思われます。前夜まで 38.0 度以上に発熱しており、当日朝初めて解熱したような場合は、①その後再び発熱する可能性が高いこと、②解熱直後は免疫力も低下しており新たな感染症に罹患しやすいこと、③子どもの体調回復が不十分であること、④他児へ感染する可能性があることなどが予想されますので、登園を控えることが望ましい。
- (2) 前日から解熱している場合でも、食欲・機嫌・元気の有無・咳や鼻汁の程度などを考え合わせ、登園させてよいかどうか判断してください。
- (3) 病気が十分に回復したと考えて登園させた場合でも、保育中に再び悪化することがあります。前日の様子や悪化した場合の緊急連絡先などを登園時に必ず伝えてください。

※以下のことは遵守してください

- 1. 緊急な場合に、必ず連絡が取れること。
- 2. 子どもの状態が悪化した場合に、すぐに来所(園)できること。

福岡市医師会保育園・幼稚園保健部会
(旧 福岡市医師会乳幼児保健委員会
保育所(園)・幼稚園保健検討会)